

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第七十四卷「芸術、文化、言語、文学（一の四）」

三次元有形静的芸術（建築、彫刻、工芸、手芸、服飾、着物、日本刀、
能面）

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第七十四巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、三次元有形静的芸術（建築、彫刻、工芸、手芸、服飾、着物、日本刀、能面）に関する述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳～十九歳

第二編 二十歳～二十九歳

センター試験に共感覚少し登場

建築家が「共感覚」の語を使用

「対女性共感覚に基づく着物の色目の考案」

第三編 三十歳～三十九歳

第四編 四十歳～四十九歳

第五編 五十歳～五十九歳

第六編 六十歳～六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作者が岩崎純一であるもの

第九編 著作者が岩崎純一であるもの

第二編 二十歳〜二十九歳

センター試験に共感覚少し登場

二〇〇八年一月十九日 起筆、攔筆、公開

国語第一問

（引用）「深さ」は私たちの前にあるのではない。私たちのまわりであって、私たちを包みこむ。しかも私たちの五感全体をつらぬき、身体全体に浸透する共感覚的な体験である。（引用終）

（狩野敏次「住居空間の身体論―『奥』の日本文化」）

これは、比喩的な意味で言ったのだろうが、著者が文章全体で言っていることは至極納得できる。

建築家が「共感覚」の語を使用

二〇一一年六月二十七日 起筆、攔筆、公開

建築家の佐川旭氏という方が、フリーマガジン「R25」(No.287) 二〇一一年六月十六日発行)の中で、下記の通り「共感覚」に言及されている。

フリーマガジン「R25」

<http://r25.yahoo.co.jp/> (閉鎖)

↓(二〇一八年一月八日 追記)

「新 R25」

<http://r25.jp/>

(引用始め)

「子どもの教育では、知識よりも心を育むことが重要です。心根の大切な要素である知欲・意欲・情の三つをバランスよく育てることで、素直で人の話をしっかりと聞く、感性豊かな子どもに育ちます。けれど、現代は家族の関係も希薄になり、情が失われがち。生活のなかで子どもの情を育てる家選び・家作りが重要なんです」

「大脳生理学でいう“共感覚”のようなものが重要だと私は考えて

います。これは三つの刺激を複数の感覚で捉えるもので、たとえば“高い金属音に冷たさを感じる”ようなことを指します。“子供の情を育む家選び”でも、この“複数の感覚”という点が重要で、“三つの記憶を複数の五感に刻みこめる”家なら、家族の思い出が記憶に刻まれ、時間が経っても温かな感情を思い起こしやすいでしょう。これが深い“情”を育むわけです」

（引用終わり）

何よりも知識を優先して動かざるを得ない職業であると思える建築家が、「子どもの教育では、知識よりも心を育むことが重要」であると述べている点は、同じ境遇にあったはずの数学者の岡潔が子どももの「情緒」を「知識」よりも重視すべきだと唱えた点に似ている。

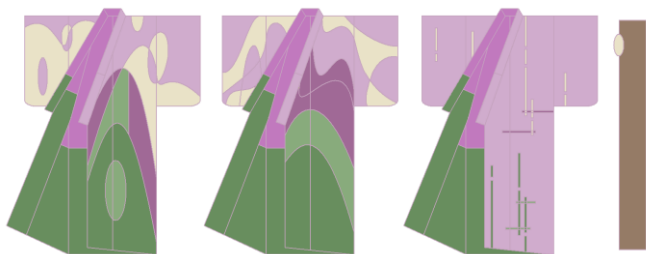
私は、岡潔の思想や主張を「共感覚」的な哲学・思想として敬愛しているが、この建築家も「大脳生理学という“共感覚”のようなものが重要だ」として、「知識」以前の「心」や「情」に「共感覚」を見ているあたりが、非常に鋭い視点だと思える。

私も仕事の中で建築家や芸術評論家に接することがあるが、このような視点を持っている文化人・学識者に出会う機会は極めて少なくなっていると感じている。数学や建築といった学問・芸術に「心」や「情」を取り入れることに挑戦し続けている文化人・学識者の数が少なくなっていることも理由にあるだろうが、学校教育や社会教

育、テレビなどのマスメディアの場であまり取り上げられないこともあるのだろう。

「対女性共感覚に基づく着物の色目の考案」

二〇〇八年七月二十二日 起筆、攔筆、公開



◆ 昨年から今年の初めにかけて、僕の「女性に色が見える」共感覚を用いて着物をデザインした「対女性共感覚に基づく着物の色目の考案」という共感覚自伝兼論文を執筆した。これについて、美しい試みだと言って下さる方、色目の名称を気に入って下さる方がいて、僕自身が感銘を受けて嬉しく思った。そこで、概要と色目の名称だけでも挙げておこうと思う。本文自体は、いつか日の目を見ればよいと思っっているし、出版するなり、本当に着物を仕立てるなり、何か機会があればよいと思う。

■ 発想の概要・目的

自分は女性に共感覚色が見えるのだから、それを逆手にとって、自分が見えた女性の共感覚色を、そのままその女性の体の部位に該当する衣服の部位に当てはめ返して和服をデザインする。また、それが和服の文化伝統にいかなる程度の一致を見るかを調べる。

■ 方法

① まず、これまでに出会った、自分が記録に残したいと思う女性の方々に見えた共感覚色を、見えるたびにメモしておいた。どの体の部位がどの色か、またその色が他の色とどう配合して見えるかなど、事細かに記録していった。なお、「文字や音に色が見える」など

の共感覚と同じ強度で女性に対して知覚される共感覚については、強く感じられる女性から考慮に入れた。また、それ以上の圧倒的な共感覚を知覚させる女性（月経周期が服の上から紅紫色と紺色を行き来して見える、髪の毛の長さによって極端に共感覚色が変わる、など）については、優先的に全て考慮に入れた。なお、対象とする女性の割合は、僕が最も強い共感覚を感じる十七〜二十八歳の女性であるが、そうでない場合も、共感覚を強く感じさせる女性については、結果に含めた。

② 実際の自分が体験した対女性共感覚を外れないように高い精度を保ちつつ、①の記録を、平安時代の襲色目や江戸時代の着物などあらゆる時代の文化伝統に照らし、それらに反しない形に収まることを確認し、それぞれ着物の色目として確定する。なお、この段階で切り捨てた①の記録は一つもなかった。

③ この手法で色の組み合わせを増やしていき、自分に着物をデザインしたいと思わせる女性を網羅するまで続ける。色目の名称については、自分がこれまで自分の和歌・音楽などに用いた語を基調とし、日本の文化伝統に反しない語によって付けるものとする。

④ 今度は逆に、面識のない日本人女性について、③で確定したそれぞれの主観知覚的な色目を外れる女性がいなかを、日常生活の中で確認する。③と④の作業を繰り返して、できる限りの主客一致

を試みる。

⑤ 現在のところ、着物が似合うと僕自身が感じる日本人女性については、以下の色目のいずれかに属している。すなわち、自分の好みや恋愛対象や美感等の観点の内にある日本人女性については、以下の色目から外れる共感覚色を持っている日本人女性には今のところ出会っていない。また、これらを外れる女性に対しては、そもそも共感覚を感じないか、体の一部分のみ色彩や音楽が脱落している。従って、例えば、今回対象となった女性に見えた共感覚色、月経色などを結果から排除したとしても、それらの色や音と同等のものを僕に知覚させる別の一般女性がいると言えるため、結果は変化しないことになる。ただし、万が一、今後これらの色目を逸脱する女性で、かつ結果に含めるべきと判断される女性に出くわしたならば、結果を書き換える必要が出てくるだろうが、そのときには自分の共感覚をありのままに残していくために、書き換えることを厭わないつもりである。

◆なお、僕のこの試みについて、和服に詳しい方々の意見によると、そもそも僕のこの試み・僕の共感覚の様相自体が、人間が衣服というものを生み出した方法そのものの再現なのではないかと言われた。また、現在の日本人が着ている洋服の非日本的色彩感覚は、僕のような共感覚を持つ日本人が激減したために成立したと思われるとの

ことである。これについては、僕自身も感じており、また今回の試みの趣意でもあると思う。

■色目一覧

「初夢」(はつゆめ)、「朝露」(あさつゆ)、「草枕」(くさまくら)、「夢通路」(ゆめのかよひぢ)、「初花」(はつはな)、「舞姫」(まひひめ)、「雨霧」(あまぎり)、「初雪」(はつゆき)、「細声」(ほごごゑ)、「花筵」(はなむしろ)、「空薫」(そらだき)、「涙川」(なみだがは)、「月夜」(つきよ)、「星月夜」(ほしづきよ)、「文枕」(ふみまくら)、「夕涼」(ゆふすず)、「若草」(わかくさ)、「初入」(はつしほ)、「雪斑消」(ゆきのむらぎえ)、「花筐」(はながたみ)、「淡雪」(あはゆき)、「花霽」(はなのしづく)、「時雨」(しぐれ)、「霧籬」(きりのまがき)、「玉梓」(たまづさ)、「枯生」(かれふ)、「暮合」(くれあひ)、「名残袖」(なごりのそで)、「雲濤」(くものみを)、「水棹」(みさを)、「忘花」(わすればな)、「濡標」(みをつくし)、「霜枯」(しもがれ)

「夢語」(ゆめがたり) (上の画像の例) 色目番号・・・34

- 面識のある女性のうち常にこの共感覚色の女性・・・▲名
- 天気・体調等によって本色目を他の色目と共有する女性・・・●

名

原（しのはら）、「寢覚」（ねぢめ）

●染色の内訳

生理色・・・撫子

関連する記事

髪飾（頭部共感覚色）・・・紅梅、退紅

<http://ij-art-music.sblo.jp/article/15812111.html>

表地・・・紅梅・桜・紅藤・苔・緑、退紅・撫子・菖蒲・草・萌黄

<http://ij-art-music.sblo.jp/article/11399924.html>

裏地・・・紅梅・緑、退紅・萌黄

<http://ij-art-music.sblo.jp/article/11195738.html>

帯（腹部・腰部共感覚色）・・・雀茶、煎茶

●色彩以外に「夢語」に該当する女性に知覚する共感覚

口短調・ホ短調・平調律旋

●模様の種類

楕円・波線・格子・平行線

・

「竹端山」（たけのはやま）、「女波」（めなみ）、「姫街道」（ひめ

かいだう）、「水無瀬川」（みなせがは）、「香箱」（かうばこ）、

「袂露」（たものつゆ）、「夕化粧」（ゆふげさう）、「湯化粧」（ゆ

げさう）、「錦木」（にしきぎ）、「莎草」（ささめ）、「姫垣」（ひ

めがき）、「結花」（むすびばな）、「夜桜」（よざくら）、「風便」（

かぜのたより）、「花香」（はなが）、「砂子」（すなご）、「篠